

# 楠ヶ丘会 ウィメンズくらぶ

No. 28

2021.03.25

発行 楠ヶ丘会ウィメンズくらぶ世話人一同

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1番 神戸市外国語大学楠ヶ丘会館内

TEL・FAX 078-794-8108 <http://www.kusugaoka.jp/>

<https://www.facebook.com/kusugaokawomen>

## 時空を越えて繋がろう

当たり前なのがそうではないことを阪神大震災で身を持って経験したと思っていたが、今世界が直面している新型コロナウイルス感染症の拡大はその規模と影響が想像を超えるものだった。

昨年1月末に邦人救援に政府チャーター機が武漢に向けて飛び立ったニュースや2月に連日報道された横浜港に入港した豪華クルーズ船での集団感染等は別世界の出来事のように思っていた。

3月に入り外大の卒業式が大ホールに集合するのではなく、学科・クラス別に分散する形で行われ、4月の入学式は見送られた。例年であれば芝生にブルーシートを広げて新入生勧誘のために各クラブが競うように開いていたお花見宴会の風景を見ることがないまま桜は散ってしまった。新型コロナウイルスが身近に迫ってきた感があった。

外大では前期授業開始が延期され、遠隔で授業を行うことが決定された。初めて聞く遠隔授業のツールを駆使して授業を準備された先生方のご苦勞はいかばかりかと拝察するが、見事に対応されて授業が行われた。キャンパスに足を踏み入れることなく、いきなり遠隔で大学授業の洗礼を受けた新入生の皆さんの戸惑いや学生の皆さんのこの一年の大変さを思うと「良く頑張った!」とエールを送りたくなる。

5月には秋に予定されていた本学で2度目の開催となる模擬国連世界大会 (NMUN) 2020 神戸大会を2年延期することが決まった。NMUNに向けて研鑽を重ねていた学生の皆さんの中には延期したことにより参加が叶わなくなった方が出てしまうとのこと、悔やまれるが、努力したことは必ず人生の宝となると確信している。今後につなげてほしい。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多数が参加する行事が軒並み中止となり、同窓会総会や各支部総会の開催が見送られる中、感染拡大の谷間を縫うように感染防止策を取りながらもウィメンズくらぶの第24回講演会を三木記念会館で開催することができたのは幸運であった。この講演会は、はじめて遠隔と対面のハイブリッドで行われた。

新型コロナウイルス感染症拡大で世界中が困難な中にあるが、ICTを活用した遠隔という手段があつという間に世界中に広まったことは不幸中の幸いである。

時空を越えたコミュニケーションが可能となり、同窓会活性化への強力なツールとなり得る。どこで暮らしていても母校外大と繋がってほしいと願っている。

(T・K)

## ウィメンズくらぶ 第24回講演会報告

# 国連を通じたローカルの 優れた技術の世界への普及

～国連ハビタットの活動と仕事を通して～



講師：星野 幸代 さん (II44E)

新型コロナウイルス感染拡大に伴い多くのイベントが中止・延期を余儀なくされる中、ウィメンズくらぶ講演会も開催が危ぶまれましたが、オンライン開催の可能性を探り、世話人一同戸惑いながらも一から準備を進め、11月29日（日）、オンライン・会場同時開催という形で多くの方にご参加いただくことができました。

今回は講師に国際連合人間居住計画（ハビタット）福岡本部（アジア太平洋地域担当）本部長補佐官の星野幸代さんをお招きしました。

星野さんは外大卒業後、神戸大学大学院を修了。2004年より国連ハビタット福岡本部に勤務されています。神戸大学大学院に進んだのも、国連でアルバイトの仕事をしたのも、国連ハビタットに就職したのもすべて外大時代の友人たちの誘いとこのことで、国連との出会いは外大なしには語れず、今回母校を訪ねるのが本当に楽しみだったと仰って下さいました。

### ① 国連ハビタットについて

国連と加盟国（国際社会）がともに目指す2030年までの開発目標（SDGs）として、「貧困をなくそう」「安全な水とトイレを世界中に」など17項目が挙げられています。コロナ禍により、2030年までに目標が一つも達成できない可能性が出てくるという厳しい状況の中で、ゴールに向けて国連諸機関が活動しています。国連ハビタットは日本にある28の国連機関のうちの一つで、自然災害・戦争や紛争・貧困などの問題によって、安全で安心して住める家を得られない国・人を支援し、すべての人々が適切な住まいを得ることができる世界の実現を目指している機関です。

### ② アジア地域を中心に開発途上国の課題について

世界の開発途上国の都市問題として、1. 貧困と格差の拡大、2. 自然災害が多い、3. 戦争・地域紛争が多い、4. 気候変動（地球温暖化）の深刻な影響を受けている、5. 都市の人口の増加（都市化）といった問題が挙げられます。これらの問題が複合的に重なり合い、最も弱い立場である女性や子どもに重くのしかかります。国連ハビタットは、安心して家族が住める家を自分たちの手で建設する支援、ゴミ問題の解決の支援、水問題の解決の支援を行い、開発途上国の人々の暮らしの向上に貢献しています。

### ③ ローカル技術と経験が開発途上国の課題を解決

#### (1) ゴミ問題

都市の人口増加、都市の拡大、ゴミの変化、気候変動、さらにはコロナ禍の影響もあり、ゴミ処理は世界的な大問題となっています。特に開発途上国においては、うず高く積まれたゴミ山の火災・崩落・爆発事故によりゴミ山のふもとの住民が犠牲になる痛ましい事例が起きています。そこで、ローコスト、ローテク、環境にやさしい、世界のさまざまな実情に合わせた取り組みが可能などの特徴を持つゴミ埋立技術「福岡方式」をケニア、エチオピア等の国に持ち込み、ゴミ埋立処分場を建設するなどの支援を行っています。また、ゴミを拾って生計を立てているウエスト・ピッカーと呼ばれる人々を雇用し、土木の基本的な技術を身につけてもらい、ゴミ拾い以外の職に就けるようにする、子どもたちも就学できるようにするといった支援も行っています。

#### (2) 水問題

アジアの開発途上国では給水設備がなく水汲みが女性・子どもの役割とされている地域が多く、女の子が就学できない、早期に結婚・出産させられる、女性の平均寿命が男性

に比べかなり短い等の問題があります。そのため福岡県の工務店の技術を提供し、ラオスにおける灌漑用水車プロジェクト、スリランカにおける下水処理槽再建・浄化プロジェクトなどを行い、安全な水を供給できるようにしています。安全な水の安定供給は、公衆衛生環境の向上・健康の向上、女性・女の子の教育・職業機会の向上、女性の権利・地位の向上、女性を取り巻く貧困の負のスパイラルからの脱却などにつながり、SDGsの達成のために非常に重要な課題となっています。

開発途上国の支援にあたり大切なことは、現地の人々の役に立つ持続可能な技術・ノウハウを考え、提供することだといいます。状況が刻々と変化していく中で最適な方法は何か、現地ですべての資材で作れて展開可能なもの、現地の人々の力だけで維持していけるものは何かを考えた上で支援を行い、現地の社会経済状況の改善に寄与することを目的としているとのこと。

国連は新卒採用を行っておらず、専門職として建築・教育・医療などのキャリア・スキルを持った人材を中途採用する形だそうです。国連の趣旨に賛同し、自分もやってみたいという熱意のある後進をたくさん探したいと、星野さんは目を輝かせて話して下さいました。会場からは、星野さんのような真の国際人というべき方の存在を在学学生にもっと知ってもらいたいという声が上がりました。星野さん、ご参加下さった皆様、本当にありがとうございました。

文責：榎原令子（学46E）



## ♪♪♪♪ アンケートの結果です ♪♪♪♪

（16名の方から回答をいただきました）

- Q. 開催をどのようにして知りましたか。  
案内ハガキや同窓会誌が11人、友人・知人からが2人、インターネットが2人、ポスター・チラシが1人、ウィメンズくらぶニュースが5人
- Q. 開催日時（時期、曜日、時間等）は？  
良い11人、普通4人
- Q. 会場（アクセス、設備等）は？  
良い13人、普通1人
- Q. 講演会のご感想
- ・ゴミと水の問題は人間にとっては大切なこと。非常にきびしい現状を紹介していただきありがとうございました。
  - ・今まで国連などの国際機関で働いている人はテレビでは見かけたが、今回こうして目の前にして良かった。やはり経験を積んで年を重ねてきた人の話は落ち着いて聞けるものである。
  - ・活動内容がよくわかり、とても勉強になりました。外大の卒業生が国際的に活躍しておられることを知り、嬉しく誇りに思います。
  - ・星野様の貴重なお話、興味深く拝聴しました。最後にお話されたローカルでシンプルな技術が役立つという事、シューマッハーの“Small is Beautiful”を思い出し、膝を打ちました。私も学生時代から当時「南北問題」と言われていた国際問題に関心を持っていましたが、30年後も途上国と言われる国々の苦境が変わらないことが残念でなりません。
  - ・お言葉の一つ一つに様々なご経験からの知恵や思いが詰まっていて、お聞きできてよかったです。
  - ・貴重なお話を大変興味深く伺いました。ご自身の体験や実際のお写真が心に響きました。
- Q. 次回以降の講演会・交流会で取り上げてほしいテーマ、講師  
各界で活躍しておられる方、コロナの医療現場を体験した方、外大出身だからこそという活躍をされている方、等のご提案をいただきました。
- Q. ウィメンズくらぶの講演会・交流会および活動全体についてのご要望、ご提案  
なかなか会場まで足を運べないのでZoom（ウェブ会議アプリケーション）で参加させていただきとても良かったです、とのご感想をいただきました。



## ウィメンズくらぶ 第25回講演会・交流会

講師：谷 幸穂さん (学66K) 高本真弥さん (学66K)

2016年11月、神戸市外大をホスト校として日本で初めて開催された模擬国連世界大会の主要メンバーです。模擬国連という場に身を置いたからこそ得られた貴重な経験、運営にあたっての苦労話などお話しいただく予定です。

日時：2021年11月13日(土) 午後1時30分～

場所：神戸市外国語大学第2学舎 503教室

講演会終了後、世話人の案内で外大キャンパス (図書館など) を歩く「ミニキャンパスツアー」を予定しています。

参加費：無料

## 関東ウィメンズくらぶ世話人会からのお知らせ

2021年1月18日

例年であれば、関東ウィメンズくらぶ交流会の開催について広報を行う時期ですが、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たず、今年5月の交流会の開催を見送ります。

また、当面の間、世話会の活動もお休みさせていただきます。卒業年度や卒業学科を超えて気軽に集う交流会を安心して再開できる日が早く訪れますよう、世話人一同、早期の収束を心から待ち望んでおります。時節柄、皆様にはくれぐれもご自愛のほどお祈り申し上げます。

関東ウィメンズくらぶ世話人代表 藤岡佐恵子 (学33H)  
関東支部HP <http://www.ronnakamura.com/gaidai/index.htm>

## —ウィメンズくらぶ(女性同窓生)の皆さま—

このコロナ禍、無事日常をお過ごしでしょうか？ 何気なく過ごしていた日々が当たり前でなくなり、先が見通せないという経験をする事になりました。様々なところで皆さま方の努力が続いていることだと思いますが、何とか乗り切っていきたいものです。

さて、「ウィメンズくらぶ」の講演会&交流会も今年で25回目を迎える事になりました。毎年この時期には、講師をどなたにお願いするかを決めて皆さま方にご案内する時期でもあります。今年は特に緊急事態宣言が各地で出される中、講演会そのものを開催するか悩ましい問題もありました。でも、毎年続けてきた講演会はやはり開催したいという世話人の一致した意見があり、開催予定の秋頃にはどのような社会の状況になっているのか不安はありますが、今年も開催することにしました。女性であることを意識しないで社会参加ができるよう、私たち自らも努力をしないとイケない時期なのかも知れませんが、負けないで、無理をしないで歩み続けたいものです。

(ウィメンズ世話人代表 原 和美)